

東條總理汪主席會見ノ際ニ於ケル
總理ノ挨拶振(案)

一、特使來任ニ對スル謝意
國民政府ニ於テハ大東亞戰爭勃發後特ニ褚外交部長ヲ帝國ニ特
派セラレ戰捷ニ對スル祝意ヲ表スルト共ニ戰爭ニ協力セムトス
ル國民政府ノ決意ヲ傳達センメラレタルハ帝國政府ノ感謝ニ絶
ヘサル所ナリ過般帝國政府ハ平昭有田、水井三氏ヲ答訪使節
トシテ貴國ニ派遣シタルトコロ主席閣下ヨリ特ニ優遇ヲ賜リ且
ツ官民ヨリ熱誠ナル歡迎ヲ受ケ欣快ニ絶ヘス茲ニ深甚ノ謝意ヲ
表スル次第ナリ

外務省

ニ國民政府ノ大東亞戰爭協力ニ付テ
大東亞戰爭勃發スルヤ國民政府ニ於テハ直チニ帝國ニ協力スル
ノ決意ヲ中外ニ表明セラレ爾來帝國ノ戰爭遂行ニ對シ陰ニ陽ニ
協力ノ實ヲ示サレソツアルハ帝國政府ノ極メテ多トスル所ナリ
大東亞戰爭ハ實ニ東亞解放ノ成否ヲ決スル一大契機ヲ爲スモノ
ニシテ中國將來ノ存亡亦之ニ繫ル
帝國政府ニ於テハ此點ニ關シ有ユル努力ヲナスノ用意アリ國民
政府ニ於テハ充分此ノ意義ヲ官民各層ニ徹底センメラレ新東亞
建設ノ分擔者タル立場ヲ明ニシテ一層帝國ト協調セラレンコト
ヲ希望ス

三、帝國ノ對華方針 附大東亞省ノ設置ニ付テ

外務省

帝國カ既定ノ方針ニ基キ益々國民政府ノ興隆ノ爲最善ノ努力ト
 支援トフ續ゲントスルモノナルコトハ幾ニ褚特派大使ヲ通シ主
 席閣下ニ傳ヘタル所ナルカ右ハ過般答訪使節ヨリモ親シク閣下
 ニ申述ヘタル通ナリ
 今同大東亞省ヲ設置シタルハ右帝國ノ方策ヲ一層強力且ツ簡明
 ニ推進セムカ爲ニ外ナラス右ハ重光大使ヨリ屢次説明セル通ナ
 リ青木大臣ハ最近マデ國民政府經濟顧問ノ職ニ在リ現地ノ狀況
 ニ能ク通曉シ居ルヲ以テ政府ハ其ノ手腕ニ期待シ極力其ノ抱負
 ノ實現ヲ支援セントスルモノナリ惟フニ國民政府ニ對スル帝國
 ノ協力ハ今後一層有效且ツ敏活ニ行ハルヘキヲ信シテ疑ハス
 四國民政府ノ強化ニ付テ

外務省

帝國ハ國民政府ヲ以テ中華民國ニ於ケル唯一ノ中央政府ト認メ
 其ノ發展ヲ基礎トシテ日華新關係ヲ樹立シ以テ事變ノ解決ニ資
 セントスルモノニシテ之ヲ疎外シテ重慶政權ト和ヲ講スルカ如
 キハ帝國政府ノ全ク考慮セサル所ナリ
 但シ國民政府カ不斷ニ和平建設ノ實ヲ擧ケ日華協力ノ精神ヲ宣
 揚シ輿地ニ迷セシ有力分子ヲ誘引獲得シ全國國民ノ人心ヲ收
 攬スルニ努力シ一日モ速ニ全面和平ノ目的ヲ達成セラルルコト
 ハ帝國ノ期待シテ已マサル所ナリ
 國民政府ノ強化ニ付テハ過般答訪使節ニ對シ主席閣下並ニ政府
 首腦ヨリ開陳セラレタル所何レモ詳細之ヲ拜承セリ帝國軍隊ハ
 中國ニ於テハ依然抗日勢力ニ對シ其他ニ於テハ米英軍ト戰爭中

外務省

97
ニシテ斯ル情勢下ニ於テ作戰上已ムヲ得サル事態ノ存續スルコ
トハ國民政府ニ於テモ充分諒解シ居ルモノト信ス但シ帝國ハ右
作戰ニ大ナル支障ヲ及ボササル限リ國民政府ノ強化ニ妨ケアル
事項ハ極力之ヲ排除シ進ンテ其ノ政治力ノ浸透ヲ圖リ以テ其ノ
要望スル行政權ノ完整ニ協力スルニ咨テラス産業ヲ復興シ生産
ヲ擴充スルコトハ民生ノ安定ヲ圖リ政府ノ基礎ヲ強固ニシテ大
東亞戰爭ニ協力スル最善ノ途ナリトナス國民政府ノ見解ハ帝國
政府ノ所見ト全ク同一ナリ帝國政府^{ハ國民政府}カ之ニ關スル施策ヲ實行ス
ルニ必要ナルアラユル協力ヲ拂フ充分ナル用意アリ
其ノ要望セラルル糧食ノ調節、物資ノ流通及商工業ノ復興ニ付
テハ極力之カ合理化乃至促進ヲ圖ル等出來得ル限リ協力ヲ拂ハ

0106

外務省

48

100
ント欲スルモノナリ
國民政府ニ於テモ右帝國ノ協力ニ應ヘテ充分ニ其ノ案ヲ練リ活
潑ニ其ノ施策ヲ進メ以テ成果ヲ擧クルニ努力セラレンコトヲ期
待ス

五國民政府ノ參戰問題ニ付テ
國民政府ノ參戰要望ニ關シテハ幾ニ周行政院副院長來朝ノ際言
及セラレ過般答訪使節ニ對シテハ主席閣下ヨリ親シク説明ノ次
第アリ帝國政府ハ充分其ノ趣旨ヲ諒承セリ
帝國政府ハ熱慮ノ結果情勢ニ重大ナル變化ナキ限リ近ク右國民
政府ノ要望ヲ容レ參戰ヲ實現セシムルノ方針ヲ採ルニ決定セリ
尙帝國政府ハ國民政府ノ參戰ニ對應シ其ノ政治力強化ニ資スル

0107

外務省

49

107

爲(1)民生ノ安定及産業ノ復興ニ協力シ特ニ(2)重慶敵産ノ返還及
 米英等ノ敵産ノ支那ニ對スル好意の處理ハ租界ノ返還(佛伊租
 界返還ニ對スル斡旋ヲ含ム)(3)治外法權ノ撤廢其ノ他不平等條
 約ノ改訂等ノ措置ヲ執ル用意アルコトヲ茲ニ申述フル次第ナリ
 但シ事極メテ機微ニ亘リ且ツ重大ナルヲ以テ詳細ハ極秘裡ニ重
 光大使ト打合セラテ遂ケ準備ヲ整フルニ遺憾ナキヲ期セラレタシ
 將タ又國民政府參戰ノ曉ハ軍政兩方面ニ亘リ能ク其ノ機能ヲ發
 揮シ得ル様其ノ體制ヲ整備シ政府ノ地位ヲ向上シ帝國ニ對スル
 協力ノ實ヲ擧クルニ一段ノ努力ヲ拂ハレシコトヲ希望スルモノ
 ナリ

0108

70 113

更新研究 研究項目 昭、一七、一一、一九
 一 戰爭完遂ニ付テハ日華協力を關スル取極メ件
 二 敵産處理ニ關シ取極メ件 國庫ニ取極メ件
 三 帝國專管租借地ニ關スル件
 四 九龍租借地ニ關スル件
 五 上海共同租界、厦門共同租界、北京公使館區域ニ關スル件
 六 佛伊租界還付方ニ關スル件
 七 廣州灣租借地及澳門ニ關スル件
 八 治外法權撤廢問題ニ關スル件
 九 國民政府ノ參戰時機及戰爭目的ニ關スル件
 十 國民政府へ通報ノ時機及其ノ後ニ於ケル國民政府トノ交渉要領

一月廿七日連絡會議
 ニ提出、上記ノ通り
 訂正アリキ

0109

8
115

二七日午後四時ヨリ連絡會議（首相官邸）
 大臣ノ説明左ノ通り
 一、「諸準備ノ件」 「日華協力ニ關スル取極」 「九龍租借地ノ件」
 一括提出、「諸準備ノ件」ニ末尾削除ニ決定
 二、研究題目ヲ讀ミ上ク
 青木大臣ヨリ對支政策一新ノ要ヲ述フ（谷大使ヨリ寫ヲ得度旨
 依頼セリ）。一同贊成
 鈴木總裁ハ戰後ハ鐵道ノ返還。幣制ノ獨立等ヲ保證シ完全ナル
 獨立國トスル約束ヲ與ヘ置キ可然トノ意見ヲ述フ
 首相ハ青木、鈴木ノ説ニ贊成ナルカ此レ等ハ日華基本條約ニ概
 觸セスヤト反問ス。青木ハ青木ノ述ヘタル範圍ハ概觸セスハ鈴

大臣ノ説明左ノ通り

0111

114

竝ニ國內手續段取及諸取極ノ締結發表時機ニ關スル件
 獨伊等關係國政府ヘノ通報等ニ關スル件
 國民政府參戰ニ伴フ報道宣傳要領ニ關スル件

外務省

0110

116

木説ハ條約改訂ヲ要スト説明ス
 鈴木ハ牴觸スルモ豫約ハ差支ナシト述フ
 右ノ結果研究題目ノ第一、ハ一更新支那ノ諸狀態改善並ニ戰爭
 完遂協力方ノ件トシ、新政策ノ具體化ニ付研究スルコト
 租界還付以下法權撤廢迄ノ五項目ハ右新政策ノ見地ヨリ再検討
 スルコトトナレリ

0112

123

90
 117
 最初
 修正
 (修正の要)

佛伊租界（上海佛租界ヲ除ク）還付斡旋ノ件
 （昭一七一一、二五）

日本ノ租界還付協定締結後外務官憲（主トシテ駐佛、伊大使之
 ニ當ル）ヨリ佛伊ニ對シ帝國政府ノ措置ニ順應シ其在支租界返
 還方途濼ス
 (イ) 伊國ニ對シテハ帝國政府ノ例ニ倣フベキ旨勸説ス
 (ロ) 佛國ニ對シテハ左ノ措置ヲ講ス
 (一) 租界返還ニ付國民政府ト正式協定締結方ヲ勸説ス。右協定
 ニ依リ佛國ハ國民政府ヲ正式ニ承認スルコトトナルモ若シ
 右正式承認ヲ困難トスルニ於テハ右協定ノ締結ハ國民政府
 ノ承認ヲ意味セザル旨ノ了解ヲ附スルモ可ナリ
 右何レモ困難ナルニ於テハ強イテ之ヲ固執セス、左ノ何レ
 ガノ方法ニ依ルベキコトヲ提示ス
 (二) 事實上佛租界ヲ支那側地方官憲ニ移讓スルコト

0113

134

18

(三)佛國ヲシテ租界ヲ先ヅ日本ニ移讓セシメ(協定ニ依リ又ハ事實上ノ方法ニ依リ)更ニ日本ヨリ之ヲ支那側ニ還付スルコト

(四)天津伊、佛租界返還ヲ誘致スル爲返還ノ上ハ過渡的措置トシテ之ト日本租界トヲ一括シテ日、伊、佛ノ居留民カ其ノ有スル條約上ノ權利ニ直接影響スル市政事項ニツキ諮問ヲ受クル地域タラシムベキコトヲ提案スルコトヲ考慮ス

(五)天津以外ノ佛租界ハ無條件返還トス

(六)支那側ニ對シテハ佛伊租界返還方幹旋スベキ旨説明スルニ止メ之カ爲ノ形式的文書ハ作成セス

外務省

0114

135

19

19

佛伊租界(上海佛租界ヲ除キ)還付幹旋ノ件 (昭一七、一一、二八)

一 日本ノ租界還付協定締結ニ關連シ佛伊ニ對シ其在支租界返還方幹旋ニ對シテ無條件トス但シ其返還ヲ誘致スル爲メ租界ノ實狀ニ應ジ一定期間過渡的措置ヲ講スルコトヲ考慮ス

二 佛國ニ對シテ租界返還ニ關聯シ國民政府ノ正式承認問題ハ生ズベシ若シ佛國カ正式承認ヲ困難ニシタルニ於テハ承認ヲ誘致スル方法ニ於テ事實上返還ノ途ヲ講ス

三 支那側ニ對シテハ佛伊租界返還方幹旋スベキ旨説明スルニ止メ之カ爲ノ形式的文書ハ作成セス

(備考)佛租界ノ國民政府ヘノ返還ト重慶側ノ對佛印動向トヲ考量スルノ要アリ

外務省

0115

136

20部内中野号

昭和一七一一二種村木

0116

對支處理要綱

註、本案ハ御前會議ノ御決定ニ迄取運フヘキモノトス

第一方針

帝國ハ國民政府參戰ヲ機トシ重慶ニ對スル一切ノ積極的和平企圖ヲ清算シ日支基本條約ノ精神ニ則リ專ラ國民政府ノ政治的地位ヲ強化シ汪政府ノ自疆方策ト相俟チテ日支一體米英蔣屈伏ニ邁進ス

第二要領

一 國民政府ノ指導

(1) 國民政府ヲシテ不動ノ決意ト信念ヲ以テ軍事上、政治上、經濟上完全ナル戰爭協力ニ徹底遺憾ナカラシム

(2) 國民政府ヲシテ自疆ノ途ヲ講セシメ戰爭完遂ノ爲必要トスル

外務省

193

2

生産ノ增強其他戰時經濟態勢ノ整備強化、戰爭目的ニ對スル官民認識ノ徹底及戰時意識ノ昂揚普及並治安ノ維持等ニ付之カ確實ナル具現ヲ圖ラシム

(1) 國民政府ヲシテ和平政權タルノ性格ヲ一擲セシメ一切ノ和平工作ヲ中止シテ重慶トノ連鎖ヲ遮斷セシム

二 經濟施策

(1) 占據地ニ於ケル經濟建設ハ大東亞經濟建設ノ一環トシテ處理スルモノトシ差當リ國防資源ノ開發取得ニ徹底スルト共ニ軍ノ現地自活ヲ確保スルヲ主眼トス

(2) 嚴ニ支那經濟ノ日本獨占ヲ戒シメ極力支那側ノ自發的協力活動ヲ推進シ日支協力ノ實ヲ擧ケシム

外務省

0117

3

29

(1) 非占據地域ヨリ重要必需物資ノ吸收取得ニ努ムルト共ニ併セテ重慶側ノ經濟的枯渴ヲ圖ル

對重慶施策

(1) 帝國ハ重慶ヲ對手トスル一切ノ積極的和平企圖ヲ清算ス但シ昭和一六―一ニ決定「情勢ノ推移ニ伴フ對重慶屈伏工作ニ關スル件」ニ準據シ諜報工作ヲ續行ス

(2) 重慶側ニシテ萬一對日全面和平ヲ誓約シ來ルニ於テハ帝國ハ從來ノ經緯ニ拘ハルコトナク寛容ナル條件ニ依リ日支全面和平ニ應スルモノトス

支那ノ主權及領土尊重ニ關スル調整

(1) 極力占據地域内ニ於ケル地方的特殊性ヲ調整シ國民政府ノ特

外務省

174

0118

4

殊地域ニ對スル指導統制ヲ強化セシム

(1) 支那ニ於ケル不平等條約並主權及獨立侵犯ノ諸事態ヲ速カニ撤廢若クハ調整ス

(2) 在支敵産ノ處理ハ帝國ノ大東亞經營上絕對ニ必要ナルモノノ外支那側ニ移管シ支那側ノ對日積極的戰爭協力ニ資セシム

(3) 帝國ハ大東亞戰爭完遂後日支基本條約ニ所要ノ修正ヲ加ヘ眞ニ日滿華共同宣言ノ實ヲ圖ル

戰略指導

既定方針ニ據リ重慶側戦力ノ擊滅ヲ圖ル

「終」

外務省

0119

6
B

20部内中6號

昭和一七一一

對支處理要綱(第二案)
註、本案ハ御前會議ノ御決定迄ニ取運フヘキモノトス
第六方針

帝國ハ國民政府參戰ヲ機トシ日滿華共同宣言ノ根本精神ニ則リ重慶抗日ノ根據ヲ消滅スルト共ニ專ラ國民政府政治力ヲ強化シ該政府ノ自疆方策ト相俟チテ眞ニ日支一體米英蔣屈伏ニ邁進ス

第三要領

一國民政府政治力ノ強化
(イ)國民政府ニ對シテハ勉メテ無用ノ干涉ヲ避ケ極力其ノ自發的協力活動ヲ促進ス
(ロ)國民政府ヲシテ不動ノ決意ト信念ヲ以テ軍事上、政治上、經

外務省

0120

6

v

濟上完全ナル戰爭協力ニ徹底遺憾ナカラシム

(イ)國民政府ヲシテ自疆ノ途ヲ講セシメ戰爭完遂ノ爲必要トスル生産ノ增強其他戰時經濟態勢ノ整備強化、戰爭目的ニ對スル官民認識ノ徹底及戰時意識ノ昂揚普及並治安ノ維持等ニ付之カ確實ナル具現ヲ圖ラシム

(ロ)極力占據地域内ニ於ケル地方的特殊性ヲ調整シ國民政府ノ特殊地域ニ對スル指導統制ヲ強化セシム

(ハ)國民政府ヲシテ和平政權タルノ性格ヲ一擲セシメ一切ノ和平工作ヲ中止シテ重慶下ノ連鎖ヲ遮斷セシム

二經濟施策

(イ)占據地ニ於ケル經濟施策ハ占據地内外ヨリ大東亞戰爭完遂ノ

外務省

0121

196

在支居留民
指置科濟

爲緊要ナル國防資源ノ開發取得ニ徹底スルヲ主眼トス
ハ嚴ニ支那經濟ノ日本獨占ヲ戒シメ極力支那側ノ自發的協力活
動ヲ促進シ日支協力ノ實ヲ擧ケシム

三 對重慶施策

(イ) 帝國ハ重慶ヲ對手トスル一切ノ積極的和平企圖ヲ清算ス但シ
昭和一六―ニ決定シ情勢ノ推移ニ伴フ對重慶屈伏工作ニ
關スル件ニ準據シ諜報工作ヲ續行ス
(ロ) 重慶側ニシテ萬一對日全面和平ヲ誓約シ來ルニ於テハ帝國ハ
從來ノ經緯ニ拘ハルコトナク寛容ナル條件ニ依リ日支全面和
平ニ應ズルモノトス

四 支那ノ主權及領土尊重ニ關スル調整

外務省

8

(イ) 支那ニ於ケル不平等條約並主權及獨立侵犯ノ諸事態ヲ速カニ
撤廢ス

(ロ) 在支敵産ノ處理ハ帝國ノ大東亞經營上絕對ニ必要ナルモノノ
外文那側ニ移管ス

(ハ) 帝國ハ速ニ日支基本條約並附屬諸取極ニ所要ノ修正ヲ加ヘ眞
ニ日滿華共同宣言ノ實ヲ圖ル

五 戰略指導

既定方針ニ據リ重慶側戰力ノ擊滅ヲ圖ル
一、軍及大使ノ政治指導(軍事ヲ除ク)ヲ極度ニ縮減シ汪政府ノ
自立的活動ヲ活潑ナラシムル趣旨ヲ明示スルヲ可トス
二、軍事上特ニ必要ナル地帯(漢口、山西等)ハ臨戰地域トシテ

國際據點
日本ハ他種
支那側ノ
充分ニ
充分ニ

外務省

0123

126

0122

軍に於て強力を統制し、キニシテ明ニス

0124

20部内第9號

對支處理要綱ニ基ク具體的方策（第三案）

昭和十七、二

第一、方針

帝國ハ國民政府參戰ヲ機トシ重慶ニ對スル一切ノ積極的妥協和平ノ企圖ヲ清算シ日支基本條約ノ精神ニ則リ專ラ國民政府ノ政治的地位ヲ強化シ該政府自體ノ自強ノ策ト相俟テ日支一體米英蔣屈伏ニ邁進ス

第二、我占據地域ニ對スル施策

其一、國民政府ノ指導

一、國民政府指導方針

帝國ハ國民政府參戰ヲ機トシ日支一體トナリ其綜合國力ニヨリ戰爭完遂ニ邁進スルヲ主眼トシ國民政府ノ健全ナル育成強化ヲ

外務省

0125

圖ル之カ爲

- (一) 國民政府ヲシテ不動ノ決意ト信念ヲ以テ軍事上、政治上、經濟上完全ナル戰爭協力ニ徹底遺憾ナカラシム
 - (二) 國民政府ヲシテ自疆ノ途ヲ講セシメ戰爭完遂ノ爲必要トスル生産ノ增強其他戰時經濟態勢ノ整備強化、戰爭目的ニ對スル官民認識ノ徹底及戰時意識ノ昂揚普及並治安ノ維持等ニ付之カ確實ナル具現ヲ圖ラシム
 - (三) 國民政府ヲシテ和平政權タルノ性格ヲ一擲セシメ一切ノ和平工作ヲ中止シテ重慶トノ連鎖ヲ遮斷セシム
- ニ國民政府ニ對スル内面指導事項
- (一) 當分ノ間強力ニ國民政府ノ施策ヲ内面指導スヘキ事項ハ概ネ

0126

外省

12

左記中特ニ重要ナル事項トシ極力無用ノ干涉ヲ避ケ國民政府ノ自發的活動ヲ推進ス

國防重要資源ノ開發取得ニ關スル事項

通貨金融貿易ニ關スル事項

軍事ニ關スル事項

外交ニ關スル事項

交通、航空、通信ニ關スル事項

中央ト北支蒙疆海南島等トノ關係調整ニ關スル事項

重要人事ニ關スル事項

以上國民政府ノ内面指導(軍事ニ關スル事項ヲ除ク)ハ大使之ニ任シ關係機關之ニ協カス

外省

198

0127

13

(一) 華北蒙疆海南島ニ於ケル自治政權ニ對スル指導モ亦右ニ準ス
 (二) 省以下ノ施政ニ關シテハ情況之ヲ許ス限リ單ニ協力援助ニ止
 ヲ其ノ自發的活動ヲ推進ス
 (三) 國民政府ト特殊地域(北支蒙疆海南島)トノ調整
 (一) 基本條約及附屬諸取極ニ反セサル限リ極力地方的特殊性ヲ調
 整シ國民政府ノ特殊地域ニ對スル指導統制ヲ強化ス此ノ際特
 ニ兩者ノ間ニ無用ノ摩擦、感情的相剋^社ナカラシメ中央地方共
 ニ全力ヲ擧ケテ戰爭完遂ニ邁進スル如ク指導ス
 (二) 帝國ハ兩者ノ關係ヲ調整スルニ當リ左記原則ヲ準用ス
 (1) 華北政務委員會ハ政治的ニハ略々現状ノ如キ自治性ヲ保持
 セシムルモ經濟的ニハ帝國指導下ニ國民政府トノ關聯性ヲ密

0128

14

ナラシム
 隨海線沿線地域ハ名實共ニ國民政府ノ直轄地域タラシム
 (1) 蒙疆地域ハ政治的ニハ北支ニ比シ更ニ高度ノ自治性ヲ保有
 セシムルモ經濟關係ニ關シテハ特ニ北支トノ關聯性ヲ密ナ
 ラシム
 (2) 海南島ハ概テ現状ニ據ルモ國民政府トノ政治的連鎖ヲ維持
 セシム
 (3) 武漢及廣東地域ニ對シテハ國民政府ノ政治力ヲ強化ス
 其二 占據地域内治安對策
 既定方針ニ據ル
 特ニ國民政府ヲシテ在支帝國軍ノ作戰並治安維持ニ對スル協力ニ

0129

萬遺憾ナキヲ期セシムルト共ニ國民政府自ラモ亦自疆保安ノ方策ヲ擴充セシム

其三 占據地域内經濟施策

一方 針

支那ニ於ケル經濟建設ハ大東亞經濟建設ノ一環トシテ處理スルモノトシ差當リ國防資源ノ開發取得ニ徹底スルト共ニ軍ノ現地自活ヲ確保スルヲ主眼トス
之カ爲嚴ニ支那經濟ノ日本獨占ヲ戒シメ極力支那側ノ自發的協力活動ヲ推進ス

ニ要 領

(一)資源ノ開發取得ヲ圖ル爲

外務省

在支要開發資源ハ帝國ヲ中核トスル大東亞ノ生擴竝物動計畫ニ即シ當分ノ間概ネ現占據地域ニ於ケル鐵礦石及石灰鹽ヲ第一トシ次テ棉花、螢石、「タングステン」石綿羊毛、牛皮、雲母トシ逐次之カ取得量ノ増加ヲ圖ル

(二)軍ノ現地自活ヲ確保スル爲

(1)支那側ノ積極的協力ヲ求メ且應能分擔セシム

(2)資源特ニ農産資源ノ取得ニ當リテハ支那ノ慣習經濟機構及土着資本ヲ努メテ活用ス

(三)國民政府經濟力ノ堅實ナル發展ヲ圖ル爲

(1)通貨

(イ)占據地域ヨリ舊法幣ヲ驅逐シテ速カニ占據地域通貨ヲ普

外務省

17

及徹底
 尙適時聯銀券及業銀券ノ切下ゲ調整ヲ行ヒ通貨ノ統一
 ヲ圖ル

(ロ) 貿易ハ大東亞戰爭遂行ノ爲帝國ノ戦力ヲ充實シ大東亞
 ・自給經濟ノ確立ヲ促進スルコトヲ以テ主眼トシ帝國指
 導下ニ計畫的ニ行フ

(ハ) 財政ハ國民政府及地方政權共ニ極力健全ノ財政ヲ維持
 シ努メテ直接税ニ依存セシメ且之ヲ成シ得ル限り生産
 部門ニ支出セシム

尙公債ノ發行等ニヨリ財政收入ノ増加ヲ圖ルト共ニ「イ
 ンフレン」抑壓防止ノ諸方策ヲ斷行セシム

外務省

0132

18

(ニ) 物資配給ノ統制ノ合理化ス

從來主トシテ帝國ニ於テ指導統制ニ任シタル物資統制
 ハ之ヲ調整合理化シ軍ノ現地自活及對敵物資流出阻止
 ノ爲ノ要請トヲ勘案シツツ逐次之ヲ國民政府ニ移管シ
 日支協力戰時經濟體制ノ確立強化ヲ圖ル

(ホ) 特殊會社ヲ調整ス

支那法人タル特殊會社ヲシテ名實共ニ日支共管ノ支那
 法人タラシムル如ク定款其他ニ所要ノ調整ヲ行ヒ支那
 側官民ノ積極的ナル活動ヲ促進シ欣然之ニ協力セシム
 ル如ク施策ス

(ハ) 在支敵産並舊敵産ノ處理ニ關シテハ昭和十七年十一月

外務省

0133

十六日決定「在支敵産處理要領」ニ據ル

(四) 日本側ノ對支金融施策

大障ニ於ケル通貨膨脹ヲ極力制限スル爲極力日本側ノ政府支拂特ニ軍費ノ節約及事業資金ヲ根幹トスル支拂金ノ調整ニ勉

(1) 政府支拂ニ付テハ人件費文化費等ヲ徹底的ニ壓縮スルト共ニ作戰ニ支障ナキ限り軍事費ノ節約ヲ圖ル

(2) 建設投資ハ物動計畫ト彼此勘案シ所要ノ削減ヲ加ヘ開發物資ハ重點品目ニ徹底制限シ不急事業ハ一時之ヲ極度ニ壓縮

若ハ整理ス

(3) 渡支邦人ハ依然制限シ且第三國人取扱ニ就テハ昭和十七年

外務省

一月二十日決定「占領地軍政實施ニ伴フ第三國權益處理要領」ニ準據ス

(4) 速ニ在支邦人ニ對シ課稅ス

(5) 差當リ日支爲替差ニ依ル貿易調整資金ノ運用ハ中央ニ於テ

強力ニ統制ス

第三、對重慶方策

其一 對重慶和平工作

「帝國ハ重慶ニ對スル一切ノ積極的和平企圖ヲ清算ス但シ昭和十六年十二月二十四日決定「情勢ノ推移ニ伴フ對重慶屈伏工作ニ關スル件」ニ準據シ諜報路線工作ヲ續行ス

「重慶側ニ對シ萬一對日全面和平協力ヲ誓約シ來ルニ於テハ帝國

外務省

21

ハ從來ノ經緯ニ拘ハルコトナク寛容ナル條件ニ依リ日支全面和平ニ應ス

其二 對重慶戰略指導

既定方針ニ據ル

其三 對重慶經濟戰方策

一 占據地域、中南支沿岸、佛印、「ビルマ」方面等ヨリスル重要軍需物資ノ輿地流入ヲ遮斷ス

二 非占據地域ヨリ重要必需物資ノ吸收ニ努ム此際交換物資トシテ一部生活必需物資ノ輿地流入ヲ認ム

第四 支那ニ於ケル不平等條約並主權及領土尊重侵犯事態ノ

調整

外務省

0136

22

別ニ定ムル所ニ依ル

0137

202

外務省

22

九龍租借地及香港ニ關スル件
帝國ハ別紙取極要綱案ニヨリ勉メテ速ニ九龍租借地並香港ヲ支那領土ニ復歸セシムルモノトシ「戰爭協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ發表ス

研究
昭和二十一年五月
附議

外務省

0138

203

21

別紙取極要綱案

本取極中ニハ左記要旨ヲ含マシムルコト

日本國政府ハ別ニ協議スル所ニ基キ勉メテ速ニ多年英國ノ支那取ノ根據タリシ九龍租借地並香港ノ支那領土ヘノ復歸ニ付同意ス

註 香港ハ帝國ノ對支及對南方施策ノ根據タルニ鑑ミ軍事の經濟的利用ニ遺憾ナカラシムル如ク措置スルモノトス

復歸際ニ將來島防據點ハ日本側ニテ把握スルニ必要ナルニ認ム

海軍
公海會社ノ後積

復歸際ニ將來島防據點ハ日本側ニテ把握スルニ必要ナルニ認ム

外務省

204

0139

12
25

支那事變處理要綱(案)ニ付御前會議決定ヲ仰ク必要ト
スル理由
(大東亞省)
二十六、二五

一、本案ハ大東亞戰爭發生後ノ新事態ノ下ニ今後執ルヘキ我對支處
理ノ大方針ヲ定メントスルモノニシテ大東亞戰爭發生前ニ於ケ
ル御前會議決定ノ「支那事變處理根本方針」、
「日支新關係調
整方針」及「支那事變處理要綱」ト比較シ其ノ内容ノ重要性ニ
於テ輕重ヲ分チ難キコト
二、本案中ニハ日華基本條約及附屬諸取極ノ改訂ニ觸レザルコト
イ、日華基本條約及附屬諸取極ハ陛下御親臨ノ樞密院本會議
ニ於テ議決セラレ御裁可ヲ經タルモノナリ
三、日華基本條約及附屬諸取極ハ昭和十三年十一月三十日御前

0140

外務省

273

26

會議決定「日支新關係調整方針」ニ基クモノナリ
ハ、日滿華共同宣言案並日華間基本條約案及附屬文書案ニ關ス
ル件ニ付昭和十五年十一月十三日御前會議決定アリ

0141

外務省

274

14
35

大東亞大臣説明(案)

昭和十七、十三、十六

二月附議

謹ミテ本案中第一方針並ニ第二要領ノ一及ニ付テ御説明申上ケ
マス。

一 本案第一方針ニ關シ

畏クモ米英ニ對スル宣戰ノ大詔ヲ拜シマシテヨリ茲ニ一年有餘
其ノ間重慶ノ動向、新支那ノ事態及世界情勢全般ノ推移等ヨリ
稽ヘマシテ今日大東亞戰爭完遂ノ爲帝國ノ採ルヘキ對支處理方
針トシテ最モ肝要ナルコトハ(一)國民政府參戰ヲ以テ日支間局面
打開ノ一大轉機トシ日支提携ノ根本精神ニ則リ專ラ國民政府ノ

外務省

0142

37

政治力ヲ強化スルト共ニ重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ヲ圖リ眞ニ
更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進スルコト及(二)世界戦局ノ推移ト
睨合セ米英側反攻ノ最高潮ニ達スルニ先チ右ニ基ク對支^諸策
ノ結實ヲ圖ルコトニ存スルト存セラレマス。

仍テ右趣旨ヲ本案ノ方針ト致シマシタ次第テ御座リマス。

右方針ニ依ル對支諸施策ノ要領ハ本案第一以下ニ掲ケテ居リ
マス。又右方針ニハ時機的ノ關係ニ於ケル帝國トシテノ努力目
標ヲ示シタモノテ御座リマス。

ニ 本案第一要領一 國民政府ノ政治力強化ニ關シ

本案第二要領一ノ(イ)(ロ)(ハ)ノ諸項ニ掲ケテ居リマスル所ハ國

外務省

0143

民政府政治力強化策トシテ特ニ主要ナルモノニ付其ノ要旨ヲ示ス趣旨テ御座リマス。

(1) 項説明 國民政府ハ誕生以來日尙淺ク未タ成熟ノ域ニ達スルニ至ソテ居リマセヌノテ之カ健全ナル育成ノ爲ニハ尙帝國ノ支援ト好意的誘掖ヲ必要トスルコトハ當然テアリマスルケレトモ眞ノ支誘掖ノ範圍ヲ逸脱シテ干涉ノ弊ニ陥ルカ如キコトカアリマシテハ獨立政府トシテノ權成ト自尊心トヲ傷ケ其ノ創意ト責任感トヲ殺スヨトナリ其ノ結果ハ同政府ノ政治力ノ強化ヲ妨クルコトトナルハ勿論政府ノ存立ソノモノノ意義ヲ減却スルノ結果トナルノ虞カアリマスルノテ帝國ハ國民政府ニ對シ勉メテ

領

外務省

干涉ヲ避ケ極力其ノ自發的活動ヲ促進スルコトカ國民政府ノ政治力強化上極メテ緊要事ト認メ之ヲ本案第二要領第一ノ(1)項ニ掲ケマシタル次第テ御座リマス。

(1) 項説明・本案第二要領第一ノ(1)項ニ掲ケマシタル地方的特殊性ノ調整及國民政府ノ地方政府ニ對スル指導強化ニ關シマシテハ之カ實行ニ當リ支那側中央地方相互間ニ無用ノ摩擦、感情的相剋ナガラシムルノミナラス追テ融和的雰囲気ヲ醸成セシメ中央地方共ニ更新支那ノ構成分子トシテ協心藏力戰爭完遂ニ邁進セシムルト共ニ帝國トシテハ差違リ日華基本條約及附屬諸取極ニ反セサル範圍ニ於テ(1)省政府以下ノ各地方政府人事ニ關シテハ

外務省

490

其ノ主要ナルモノニ付豫メ日本側ニ通知連絡セシムル以外支那側ノ自由處置ニ任シ日本側ハ之ニ干渉セサルコト(2)省政府以下ノ施政ニ關スル日本側ノ指導乃至要求ハ作戰警備ニ限定スルヲ本則トシ爾他ノ行政部面ニアリテハ廣ク支那側ニ任セ支那側ノ責任ト創意トヲ活用シ其ノ自發的活動ニ依ル政治力強化及積極的對日協力ヲ促進スルコト(3)日本側ハ支那側上級政府ノ地方政府ニ對スル政令ノ貫徹ヲ助長スルモノトシ末稍ニ於ケル干渉ニ依リ支那側施政ノ中絶分歸スルカ如キコトナカラシムルコト(4)華北政務委員會ト中央政府トノ權限關係ニ付テハ日華基本條約附屬交換公文(甲)ニ基キ所要ノ調整整理ヲ圖ラシムルト共ニ勉メテ兩者間ノ空氣ヲ

0146

外務省

294

491

融和セシメ且相互ノ經濟的關聯性ヲ一層密ナラシムルコト(5)蒙疆ニ關シテハ華北トノ間ニ相互ノ經濟的關聯性ヲ特ニ密ナラシムルコト(6)武漢及廈門ニ關シテハ廣東ニ準シ爲シ得ル限り國民政府ノ政治力ヲ滲透セシムルコト(7)海南島ニ關シテハ概ネ現狀ニ從ヒ逐次所要ノ調整ヲ加フルコトカ必要テアルト考ヘテ居リマス。

イ)項説明 本案第二要領一ノイ)項中ノ租界ニ關シマシテハ國民政府參戰ヲ機トシ帝國ノ專管租界即チ天津、杭州、蘇州、漢口、沙市、重慶、廈門、福州ノ日本租界ヲ支那側ニ移管スル爲國民政府トノ間ニ所要ノ取極ヲ締結スルコトトシ而シテ右專管租界

0147

外務省

295

42
還付ニ關スル取極ノ實施ニ關シテハ日華兩國政府夫々同數ノ委員ヲ任命シ所要ノ事項ヲ議定セシムルコトトシ又上海及廈門ノ共同租界移管ニ關スル取極ニ於テハ日本國政府ハ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ中華民國國民政府ニ於テ成ルヘク速ニ上海共同租界及廈門共同租界ヲ回收スルコトニ同意スル旨ヲ定メ右兩取極ハ執レモ之ヲ公表スルコトカ政治的效果ヲ擧グル上ヨリシテ適當テアルト存シテ居リマス。
本案第一要領一ノイ項中治外法權ノ撤廢ニ關シマシテハ國民政府參戰ヲ機トシ治外法權撤廢ニ關スル具體案ヲ審議作成セシメ併セテ支那側ノ内地開放ニ關シ研究セシムル目的ヲ以テ日華專

43
門委員會ヲ設置スル爲國民政府トノ間ニ所要ノ取極ヲ締結シテ之ヲ公表スルコトトシ而シテ帝國トシテハ治外法權撤廢ノ實行ハ前記專門委員會ニ於ケル具體案ノ作成ニ伴ヒ漸次之ヲ實施ニ移シテ全面的撤廢ニ及ブコトトシ先ヅ國民政府ニ對スル財政援助ノ目的ヲ以テ課税ニ關スル我方特權ニ付速ニ調整ヲ加フル爲專門委員會ヲシテ先ヅ課税問題ノ研究ニ當ラシムルヲ適當ト考ヘテ居ル次第ヲ御座リマス。
本案第一要領一ノイ項ニ所謂「其他特異ノ事態」中ニハ北京公使館區域及日華基本協約附屬議定書第一條ニ所謂「特殊事態」等ヲ含ムモノヲ御座リマスルカ右ノ中北京公使館區域ニ付テハ

297

296

44

國民政府參戰ヲ機トシテ之ヲ支那側ニ移管スル爲國民政府トノ間ニ取極ヲ締結シテ之ヲ公表スルコトトシ又所謂「特殊事態」ニ付テモ支那ノ主權及領土尊重ノ趣旨ニ基キ速ニ之カ徹廢乃至調整ヲ圖ルコトカ國民政府ノ政治力強化上必要テアルト考ヘテ居リマス。

外務省

0150-1

298

45

取極化し
自強策を
印する
外務省
の意向
を
示す
もの
なり

(四)項説明 本案第二、要領一、(一)項ハ國民政府ノ自強及戰爭協力ノ主要事項ニ關スルモノテ御座リマス。國民政府ヲシテ各般ニ亘リ自強ノ途ヲ講セシムルノ必要カアルコトハ申ス迄モ御座リマセヌ。例ヘハ自ラ其ノ財政ヲ強化スル爲有ラユル方策ヲ講セシメ特ニ同政府治下ノ治安ヲ確立シ經濟力ノ伸張ヲ圖ラシムルコトカ必要テアルト考ヘマス。而シテ帝國ハ右國民政府財政自強方策ニ對シ援助ヲ與フルモノトシ特ニ前述ノ如ク治外法權等ニ基ク課税ニ關スル我方特權ニ付調整ヲ加フルト共ニ國民政府ノ關稅、轉口稅及統稅等ノ稅率其ノ他ノ合理的改正並ニ儲備券ノ價值維持等ニ付所要ノ援助ヲ與フルコトカ必要テアルト考ヘテ居リマス。

外務省

0150-2

299

國民政府ノ戰爭協力ニ付テハ特ニ戰爭完遂ノ爲必要トスル生産ノ增強、戰爭目的ニ對スル官民認識ノ普及並ニ治安維持ノ強化等ノ確實ナル具現ヲ圖リ戰爭協力ニ徹底遺憾ナカラシムルコトカ肝要テアリマスルカ國民政府參戰ヲ機トシ同政府ノ戰爭協力ヲ確保スル爲同政府トノ間ニ米英ニ對スル共同ノ戰爭ヲ完遂スル爲日華兩國ハ不動ノ決意ト信念トヲ以テ軍事上政治上經濟上完全ナル協力ヲ爲スモノナル旨ノ基本的取極ヲ締結スルコトカ必要テアルト存シテ居リマス。

(外)項説明 本案第二、要領一、(外)ニ於テ將來國民政府ノ充實強化並ニ其ノ對日協力ノ具現等ニ照應シ適時日華基本條約及附屬諸取極ニ所要ノ修正ヲ加フルコトヲ考慮スル旨ヲ揭ケマシタル

所以ニ付概略ヲ申上ケマスレハ總理大臣ノ本案提案理由説明中ニアリマシタ如ク大東亞戰爭發生前ニ於キマシテハ帝國ハ支那ニ於ケル米英ノ跳梁ヲ現存セシメツツ事變處理ノ方途ヲ講セサルヲ得サル事情ニ置カレテ居リマシタ關係モアリ之ニ對抗スル必要ト米英ト苟結スル支那抗日勢力ノ再燃ニ對スル備ヘヲ爲ス必要等ニ基キ帝國ノ對支要求條件ハ日支提携ノ根本理念ヨリ見マシテ透徹ズル能ハサル憾ミカアリマシタコトハ否ミ難キ所ト存セラルルノテ御座リマス。然ルニ大東亞戰爭發生後ノ今日ニ於キマシテハ帝國最高ノ緊要事ハ米英ニ對シ勝ツニ在リ之カ爲ニハ出來得ル限り速ニ眞ニ更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進スルノ態勢ヲ確立スルコトカ國家ノ一大要務ト認メラレマスルノテ

必シモ從來ノ經緯ニ拘泥スルコトナク將來適當ナル時機ニ於テ日華基本條約及附屬諸取極ニ所要ノ修正ヲ加フルコトヲ考慮スルコトカ適當デアルト存セラルル次第テ御座リマス。尤モ如何ナル時機ニ於テ如何ナル修正ヲ加フルカニ付キマシテハ慎重ナル考慮ヲ要スル儀ト存シマス。

尙本案第二、要領一ニ掲ケマシタル以外在支敵産處理ニ關シマシテモ出來得ル限り支那側ニ對シ好意的措置ヲ講シ民心ノ獲得國民政府ノ政治力強化ニ資スルコトカ適當デアルト存シテ居リマス。

三本案第二、要領二經濟施策ニ關シ

(1)項説明 帝國ノ物的戰力ノ急速ナル增強カ國家當面ノ緊要事

外務省

デアリマスルコトハ贅言ヲ俟タサル所テ御座リマス。而シテ帝國ノ物的戰力增強上支那方面ニ對スル期待ハ益々緊切ナルモカアルノデアリマスルニ依リ本案第二、要領二ノ(1)項ニ於キマシテ當面ノ對支經濟施策ノ重點ヲ明カニ致シマシタ次第テ御座リマス。即チ當面ノ對支經濟施策ハ戰爭完遂上必要トスル物資獲得ノ増大ヲ主眼トシ占領地域内ニ於ケル緊要物資ノ重點的開發取得並ニ敵方物資ノ積極的獲得ヲ圖ルコトニ在ル旨ヲ明示致シマシタ。之カ實行ノ爲ニハ政府ハ統帥部ト策應シ有ラユル努力ヲ傾注スル覺悟テ御座リマス。尙支那ニ於ケル物資ノ獲得及統制ニ付キマシテハ物資取得ヲ増大シ併セテ民生ニ資スル爲物資統制ヲ合理化スルト共ニ物資買上價格ノ適正化ヲ圖ル必要カ

外務省

303

アルト考へテ居リマス。
(ロ)項説明 對支經濟施策ノ實行ニ當リテハ日本側ノ獨占ヲ戒ム
ルト共ニ支那側官民ノ責任ト創意トヲ活用シ其ノ積極的對日協
カヲ具現セシムルコトカ肝要ト認メラレマスルノテ右ノ趣旨ヲ
本案第二、要領ニ、(ロ)ニ揭ケマシタ次第テ御座リマス。支那側
官民ノ積極的ナル經濟活動及對日協力ヲ促進致シマスル爲ニ、
ハ差當リ日支合辦ノ支那法人ヲシテ名實共ニ支那側ノ監督下ニ
置キ其ノ資本、人的構成、免稅特權其ノ他ニ付根本的調整ヲ加
フル外一般物資ノ生産及配給ニ當リテモ日本側ノ獨占ヲ避ケ支
那側ヲシテ參加均霑セシムル措置ヲ講スルコトカ必要テアルト
考へテ居リマス。

0155

外務省

304

51

尙本案ニ揭ケマシタル以外以上本案ノ實行ニ當リマシテハ一方
國內人心ノ指導ニ留意致シマスルト共ニ他方對外殊ニ對支宣傳
戰ヲ活潑ニ展開シ極力政治的效果ヲ大ナラシムル如ク施策スル
ノ要緊切ナルモノアリト考へテ居ル次第テ御座リマス。

0156

要スルニ以上本案ノ目的トスル所ハ日支提携ノ根本精神ニ則リ
國民政府ノ政治力ヲ強化スルト共ニ重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅
ヲ圖リ眞ニ更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進スルコトヲ根本方針
トシ之カ爲必要ナル施策ハ必シモ從來ノ經緯ニ拘泥スルコトナ
ク果敢ニ實行センコトヲ期スルモノデアリマシテ深ク今日ノ戰
争遂行ノ要請ニ基クモノト存スル次第テ御座リマス。
外務省方針ニ基キ諸施策ハ政府大本營ニテ決定シ
重要トシテ中裁方針ヲ堅持スルコトヲ期スルベシ
外相ヲシテ

13
27
(A)

第三 對重慶方策ニ就テ

二七一三二七

(一) 對重慶工作ノ經緯ニ就テ
對重慶工作ニ就テハ昭和十五年十一月十五日御前會議決定「支那事變處理要綱」ニ於テ帝國ノ對重慶工作ニ關シテハ「從來軍民ニ依リテ行ハレタル和平ノ爲ノ諸工作ハ一切之ヲ中止ス」ト定メ又新中央政府ノ對重慶和平工作ニ關シテハ「重慶側ハ究極ニ於テ新中央政府ニ合流セシムルモ新中央政府ヲシテ之ガ急速ナル成功ニ焦慮スルカ如キ措置ヲ採ラザルモノトス」ト定メラレ全面和平ヘノ未練ヲ賠シツツ一應重慶トノ關係ヲ斷絶シテ大長期戰態勢ヘ轉移スルコトナレリ而シテ帝國政府及國民政府共ニ表面右態度ヲ維持シ來レルモ内ニ介在スル希望ハ共ニ何ト

外務省

0157

28

カシテ重慶ニ勸キカケ全面和平ニ導カントスルノ苦慮ナキニシテモアラス特ニ國民政府ニ於テハ自ラカクスルコトヲ以テ其存立ノ使命ナリト考ヘ治下ヘノ政治力滲透ヲ第二義トシ重慶トノ和平ニ焦慮スルトゴロアリタリ
然ルトコロ大東亞戰爭勃發後ノ戰果ニ照應シ重慶屈伏政略工作ヲ開始セントスルノ氣運生シタルヲ以テ昭和十六年十二月十四日大本營政府連絡會議ニ於テ「情勢ノ推移ニ伴フ對重慶屈伏工作ニ關スル件」ヲ決定シ重慶ノ屈伏ヲ目的トスル對重慶政略施策ヲ行ハントスル我方企圖ヲ明ラカニセラレタルモ尙且其實施時機屈伏條件等ニハ一切觸ルルコトナク單ニ重慶ノ動向ヲ諜知スル爲ノ諜報路線工作ノミヲ行フコトトシ大本營陸軍部

外務省

0158

之ニ任シ最近重慶側政治動向ノ一部ヲ偵知シ得タルモ重慶側ノ對日抗戰意識ハ未タ熾烈ニシテ遂ニ屈伏工作ヘノ轉移ヲ策スルヲ得ヌンテ今日ニ至レリ

(一) 帝國今後ノ對重慶方策

今ヤ大東亞戰爭ハ長期化ヲ豫想セラルルノミナラス對重慶徹底の作戰指導ノ日途又今直チニ豫想シ得サル現下並今後ノ情勢ト昭和十七年十一月七日大本營政府連統會議決定「世界情勢判斷」ニ於テモ明ラカナル如キ重慶ノ動向即チ「一重慶ハ其抗戰力逐次低下スヘキモ米英ノ最後の勝利ヲ信シ依然繼續戰意志ヲ放棄セサルヘン、二重慶ハ今後益々「ソ」トノ提携ヲ強化シ米英ヨリノ物的援助ノ復活ヲ努ムルト共ニ逐次米英ノ對日航空作

戰ノ促進強化ヲ圖ルヘン」トヲ併セ考察スルトキハ對重慶徹底的の作戰ノ伴ハサル對重慶政謀略工作ヲ以テ對支全面的處理ヲ完

現存於此

ウ・セントスルノ企圖ハ今日殆ト豫想シ得サル情況トナレリ
依テ帝國ハ一切ノ重慶ニ對スル未練ヲ清算シテ政戰一致
眞ニ更新支那トノ一體化ヲ圖リ戰爭完遂ニ邁進スヘキモノト思

考ス

然リト雖モ今後ニ於ケル世界情勢ノ變轉ハ必スシモ豫斷シ得ヌ
殊ニ國民政府ノ政治力強化、重慶抗日ノ根據名目ノ浸蝕ニ伴ヒ
重慶側ニシテ屈伏シ來ル場合又ハ重慶側屈伏崩壞ノ端緒ヲ豫想
シ得タル場合ニ於テハ皆中へ積極的ニ寛容ナル態度ヲ以テ之ニ
臨ム一切ノ往來ヲ行懸リテ持テテ之ヲ迎ワルニ各サカナラサル

31

重慶側特領
切實ニ作
實ハスルモ作
別心ヲ切實
世々ナリ
評テ重慶
現在ニ特領
如シ

ハキハ言フ事ナシ大東亞戰爭間一日ヲ速カニ其ノ日ノ來ルヲ待
 ヲノ心事ニ於テハ變リ無ク極力此クノ如キ氣運ヲ醸成スルヲ好
 機到來ヲ豫察セテ改メテ御決定ヲ願ヒ積極的ニ對重慶工作ノ結
 實ヲ圖ルヘキナリ

從テ現下帝國ノ採ルヘキ對重慶政策ハ國民政府ノ對重慶其ノ政
 治力ノ強化及重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ニ伴フ對重慶宣傳ノ強
 化ニ在リ

偵知並重慶化抗戰體制ノ擾亂ニ努ムルニ伴フ情勢ノ變化ニ應ジ得ル
 ノ礎地ヲ確立スルニ在リ

國民政府今後ノ對重慶方策

國民政府ノ對重慶態度ハ右帝國ノ方針ニ順應セシムルモ國民政

重慶側特領

切實ニ作

實ハスルモ作

別心ヲ切實

世々ナリ

評テ重慶

現在ニ特領

如シ

外務省

0161

277

32

府參戰ノ新ナル性格ニ則リ從來ノ重慶側ニ對スル行懸リヲ捨
 テ期シ私本政權ヲハ性格ノ一擲ニ重慶トノ一切ノ利害
 連斷ニ對シ一意自強ノ方策ヲ確立シツツ眞ニ日支一體對米英戰爭
 協力ニ邁進セシムヘキナリ

重慶側特領

切實ニ作

實ハスルモ作

別心ヲ切實

世々ナリ

評テ重慶

現在ニ特領

如シ

外務省

0162

277

8月の内務三局
第四 戦略方策ニ就テ

一七一三三
種村編

陸海軍ハ昭和十五年十一月十五日御前會議決定ニ支那事變處理要綱ニ基キ既定方針ニ準據シ大命ヲ奉戴シテ愈々占據地域内ノ治安肅正ニ徹底スルヲ共ニ對重慶壓迫ヲ強化シ重慶側繼戰企圖ノ破滅ヲ封止ニ力ヲ用アリ

擯衰亡ニ努力シソソナル次第ニシテ今日何等其ノ變更ノ必要ヲ認メ不益々之ニ邁進スヘキモノニ確信シテ

尙
昨茲ニ一言致シ度キハ對重慶經濟封鎖ニ關スル觀念ノ調整ナリ
即チ對米英開戰前ニ於テハ上海香港ヲ中繼シテ中南支方面ヨリ
スル米英ノ對重慶補給力白晝衰々帝國艦船ノ監視下ニ於テ行ハレ
テ對重慶經濟封鎖ノ必要特ニ重視セラルナリ

支那ヲ利用シ米英等
支那ヲ利用シ米英等
支那ヲ利用シ米英等

94

從來陸海軍共ニ對重慶經濟封鎖ニ專念シアリタルモノナルカ今ヤ大東亞戰爭下ノ現情勢ニ於テハ帝國ノ戰略態勢其レ自體カ既ニ封鎖態勢ヲ形成シ對米英開戰前企圖シアリタル經濟封鎖ノ目的ハ既ニ十中八九分通リヲ達成シ剩ス所ハ僅カニ我カ占據地域ヨリスル戰爭必需物資ノ敵方地域ヘノ流入阻止ノミトナレリ

從テ大局的見地ヨリ觀レハ經濟封鎖ニ對スル努力ノ必要ハ大東亞戰爭開始前ニ比シ著シク低下セリト雖之ヲ以テ對敵經濟封鎖ノ必要解消セリト見做シ敵方地域ヘノ物資ノ流ヲ其儘ニ放置セントスルカ如キハ大ナル誤ナリ

要ハ帝國物的國力ノ現狀ニ鑑ミ戰爭遂行上必要トスル物資獲得ノ要請カ本國現狀ニ現在極メテ切實ナル問題トシテ著シク

0164

278

0163

15 52

15

今日ニ於テハ
重加シ來リタル點ニ在ルヲ以テ此等ノ間ニ所要ノ調整ヲ加フルコ
ト必要ナリト思惟スル次第ナリ

大東亞戰爭完結後ノ

對支處理方針ニ基ク具体的方策ニ準據シ國民
政府參戰ノ機トシ同政府ト締結スヘキ諸取極
ニ關スル措置要領(案)

昭和十七年十二月廿八日
大東亞政府連絡會員了解書

外務省

外務省

322

0165

277

0165



目次

- 一 戦争協力ニ關スル日華共同宣言ニ關スル件
- 二 帝國專管租界還付ニ關スル件
- 三 上海共同租界及厦門共同租界移管ニ關スル件
- 四 佛伊租界還付方針ニ關スル件
- 五 北京公使館區域移管ニ關スル件
- 六 治外法權撤廢ニ關スル件
- 七 在支敵産處理ニ關スル件

外務省

0167

323

54

- 一 戦争協力ニ關スル日華共同宣言ニ關スル件
- 二 戦争完遂ニ付テノ日華協力ニ關スル取極ノ内容形式等ハ別紙第一要綱案ニ依ル
- 三 右取極ニ關聯スル日華間了解ノ内容形式等ハ別紙第二要綱案ニ依ル

外務省

0168

224

別紙第一

(一) 戦争完遂ニ付テノ日華協力ニ關スル取極ノ形式ハ「協定」「取極」等必シモ拘泥ヤサルモ成ルヘク「共同宣言」(事前御裁可ノ上日華兩國全權委員調印)ノ方式ニ依ルコト

(二) 本件取極ノ内容ハ左ノ趣旨ニ依ルコト

「米英ニ對スル共同ノ戦争ヲ完遂スル爲兩國ハ不動ノ決意、信念トシ以テ軍事上政治上經濟上完全ナル協力ヲ爲スモノナルコトヲ宣言ス」

(三) 本件取極ハ調印ト同時ニ公表スルコト

325

別紙第二

(一) 日華基本條約締結交渉ノ際ニ於ケル「議事録抜萃」(兩國交渉委員署名)ト同様ノ方式ノ「議事録抜萃」ナル文書ヲ作成シ右文書ニ於テ左ノ趣旨ノ日華間了解ヲ明確ニスルコト

「國民政府ハ各般ニ亘リ自國ノ途ヲ講シ廣ク民心ヲ獲得シ時ニ戦争完遂ノ爲必要トスル生産ノ増強、戦争目的ニ對スル官民認識ノ普及並ニ治安維持ノ強化等ノ確實ナル具現ヲ圖リ以テ戦争完遂ニ寄與スルモノナル旨

日本側ハ右ニ對シ積極的ニ協力援助ヲ與ヘ此ノ際租界遷付、治外法權撤廢、敵産處理等ニ付テモ好意的輸置ヲ執ルモノナル旨」

326

187
〔本件「議事録抜萃」ハ公表セサルコト
註 國民政府宣戰布告中ニ豫メ日本御ト協議ノ上戰爭目的ヲ明示
セシムルコト

右國民政府戰爭目的ニ付テハ帝國ノ戰爭目的ニ同調シ併セテ獨
伊總樞軸國及「タイ」國ノ戰爭目的ヲモ勘案シ概ネ左ノ趣旨ニ
依ル如ク適宜國民政府側ニ要望スルコト
「國民政府ノ戰爭目的ハ日本ト協力シテ米英勢力ヲ一掃シ以テ
新中國ヲ建設シ東亞ノ解放ヲ圖リ延イテ世界全般ノ公正ナル
新秩序招來ニ寄與スルニ在ルコト」

外務省

0171

321

188
ニ帝國專管租界還付ニ關スル件
帝國專管租界ノ還付ニ關シ別紙第三要綱案ノ趣旨ニ依ル取極メ戰
争協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ締結シ且公表ス

外務省

0172

328

別紙第三

帝國專管租界還付ニ關スル取極ノ内容ハ左ノ趣旨ニ依ルコト
 「日本國政府ハ現ニ日本國カ中華民國ニ於テ有スル專管租界ヲ中
 華民國國民政府ニ還付ス
 中華民國國民政府ハ舊租界ニ於ケル日本國臣民ノ居住及福祉等ニ
 付テハ少クトモ從來ノ租界施政ノ程度ヲ維持スルモノトス
 日本國政府及中華民國國民政府ハ夫々同數ノ委員ヲ任命シ本取
 極ノ實施ニ關シ所要ノ事項ヲ議定セシム」

外務省

0173

66

三 上海共同租界及廈門共同租界移管ニ關スル件

上海共同租界及廈門共同租界移管ニ關シ別紙第四要綱案ノ趣旨ニ
 依ル取極ヲ「戰爭協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ締結シ其
 ノ一部ヲ公表ス
 同本件實施ニ關シテハ左ニ依ル
 「本件ハ關係第三國ノ意向及上海佛租界ノ處理如何ニ拘ラス之ヲ
 實行スルモノトス
 「上海共同租界ノ移管ハ成ルヘク速ニ之ヲ實施シ遲クモ昭和十八
 年中ニ之ヲ完了スルモノトス
 「廈門共同租界ノ移管ハ速ニ之ヲ實施スルモノトス

外務省

0174

330

別紙第四

〔一〕上海共同租界及厦門共同租界移管ニ關スル正式取極ノ内容ハ左ノ趣旨ニ依ルモノトシ本取極ハ之ヲ公表スルコト

〔二〕日本國政府ハ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ中華民國國民政府ニ於テ成ルヘク速ニ上海共同租界及厦門鼓浪嶼共同租界ヲ回收スルコトニ同意ス

〔三〕右正式取極ト同時ニ兩國交渉委員署名ノ「議事録抜萃」ヲ以テ左ノ趣旨ヲ内容トスル取極ヲ爲シ之ヲ秘密トスルコト

〔四〕上海共同租界移管實施ノ時期ハ同租界内ニ於ケル友好國權益ノ介在其ノ他諸般ノ事情アルニ付此等ノ處理ヲ了シタル上別ニ協議決定スヘク又厦門鼓浪嶼共同租界移管ハ速ニ之

外務省

0175

62

トヲ實施ス

0176

外務省

63

四 佛伊租界還付方針ニ關スル件

〔一〕帝國ノ專管租界還付取極締結ニ關聯シ伊國ニ對シ其ノ租界返還方針慈愼ス右租界返還ハ帝國ニ依ヒ原則トシテ無條件トス但シ無條件返還ニ應セサル場合ハ租界ノ實狀ニ應シ一定期間過渡的措置ヲ講スルコトヲ考慮ス

〔二〕佛國ニ對シテハ前項ニ準スルモ其ノ時期ハ別途之ヲ定ム

〔三〕國民政府ニ對シテハ佛伊租界還付方針ニ依リ其旨説明スルニ止メ之カ爲メ形式的文書ハ作成セス

外務省

0177

332

64

五 北京公使館區域移管ニ關スル件

北京公使館區域ニ於ケル從來ノ特別行政ヲ中國側ニ移管スル爲別紙第五要綱案ノ趣旨ニ依リ取極シ「戰爭協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ締結公表シ速ニ之ヲ實施ス

外務省

0178

333

61

別紙第五

北京公使館區域移管ニ關スル取極ノ内容ハ左ノ趣旨ニ依ルコト
 一日本國政府ハ北京公使館區域ニ於ケル從來ノ特別行政ヲ中華民
 國國民政府ニ於テ速ニ回收スルコトニ同意ス

0179

外務省

334

66

六治外法權撤廢ニ關スル件

帝國ハ日華基本條約ニ基キ逐次又那ニ於ケル治外法權ノ撤廢ヲ行
 フモノトス
 之カ爲別紙第六要綱案ノ趣旨ニ依ル取極ヲ以テ戰爭協力ニ關スル日
 華共同宣言ニ同時ニ締結シ且公表ス

0180

外務省

335

REEL No. A-0231

アジア歴史資料センター

別紙第六

治外法權撤廢ニ關スル取極ノ内容ハ左ノ趣旨ニ依ルコト
 「日本國政府ハ中華民國ニ於テ有スル其ノ治外法權ノ撤廢ヲ速ニ
 實行スル意向ヲ有スルヲ以テ日華兩國政府ハ速ニ同數ノ委員ヨ
 リ成ル專門委員會ヲ設置シ右ニ關スル具體案ヲ審議作成セシム
 中華民國國民政府ハ日本國ノ治外法權ノ部分的又ハ全般的撤廢
 ニ件ヒ自國領域ヲ日本國臣民ノ居住營業ノ爲開放スヘク且日本
 國臣民ニ對シテハ中華民國國民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ與ヘサ
 ルモノトス

右事項ニ關シ前記專門委員會ヲシテ併セテ研究セシム
 註、帝國トシテハ治外法權撤廢ノ實行ハ前記專門委員會ニ於

ケル具體案ノ作成ニ件ヒ漸次之ヲ實施ニ移シテ全面的撤廢
 ニ及フコトトシ先ツ國民政府ニ對スル財政援助ノ目的ニテ
 課税ニ關スル我方特權ニ付速ニ調整ヲ加フル爲專門委員會
 ●ラシテ先ツ課税問題ノ研究ニ當ラシムルモノトス

外務省

69

在支敵産處理ニ關スル件

在支敵産處理ニ關シ別紙第七要綱案ノ趣旨ニ依ル取極ヲ「戰爭協
力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ行ヒ右ニ關シ公表シ速ニ實施
ス

備考 本件公表ノ内容ハ別ニ定ム

0183

外務省

338

170

別紙第七

在華帝國大使及國民政府外交部長間往復書翰ヲ以テ在支敵産處理
ニ關シ左ノ趣旨ノ取極ヲ爲スコト

「一日本國政府ハ中華民國ニ於ケル日本側押收ノ敵國、敵國人及
敵國系法人ノ財産ハ戰爭完遂上ノ必要ニ依リ日本國自ラ之ヲ
處理スルモノノ外總テ合理的方法ニ依リ速ニ之ヲ國民政府ニ
移管スルノ用意アルニ付右了承アリタキ旨（在華帝國大使書
翰内容要旨）

「二中華民國國民政府ハ右日本側ノ好意の措置ヲ欣然受諾スルモ
ノナル旨（國民政府外交部長書翰内容要旨）」

0184

外務省

339

十字 16
報

外務大臣説明 (一案)

昭一七二二一八

方針基の諸方策

謹ミテ本案實施ニ關聯シテ第三國關係ノ事ニ就マンテ御説明申上
ケマス

先ツ獨逸ニ對シマンテ帝國政府ハ國民政府ノ參戰前適當ノ時機ニ
於キマンテ支那參戰ノ次第並ニ右ニ伴ヒ帝國ニ於テ國民政府ノ政
治力強化ノ爲諸般ノ措置殊ニ日本專管租界、共同租界及公使館區
域ノ支那側ヘノ移管、治外法權ノ撤廢等ヲ實行スル意向ナル旨ヲ
内報致シマンテ我方ノ政策ニ同調センコトヲ求メマスルト共ニ帝
國政府ニ於テハ佛、伊、太、利兩國ニ於テ帝國ノ措置ニ依ヒ租界返
還等ノ措置ニ出シコトヲ希望シテ居リ之カ爲必要ニ應シ獨逸ノ好

外務省

0185

12

意的措置ヲ求ムルコトアルヘントノ趣旨ヲ申入レルコト適當ト
考スル次第テ御座リマス。元來獨逸ハ第一次歐洲大戰ノ結果
ユルサイナール條約ニ依リマンテ其ノ支那ニ於ケル租界ヲ返還シ治
外法權ヲ撤廢致シマンシ支那ニ於テハ日本初メ伊、佛、韓、或ハ米
英等ノ所謂平等條約國ニ比シ不利ナル立場ニ在リマンテ居
テコト

獨逸ト之等ノ國ト同等ノ地位ヲ得度イトノ希望ヲ有シテ居
ル所ノナイノハ勿論佛、韓、伊、太、利等ガ日本ノ措置ニ依
テ成リマスレハ獨逸ハ支那ニ於テ他ノ諸國ト同等ノ地位ニ立ツコト
トナリ其ノ豫テノ希望ニモ合致スル所ヲ御座リマス

外務省

0186

342

341

75

府ノ對米英宣戰ハ國民政府カ日獨伊等樞軸國ノ與國トシテ共同戰
 線ヲ結成シ米英ノ擊滅ニ當ルコトト相成リマスルノテ國民政府ノ
 政治力強化ハ共同ノ目的達成上ニモ必要ナルコトデアルコトハ申
 上ル迄ニ於テモ其意分テ理解得ル所ナラト存スルシ
 同調スルモノト想像致サレル次第テ御座リマス

次ニ伊太利ニ對シマンテモ帝國政府ハ國民政府參前獨逸ニ對ス
 ルト同様ノ事前通告ヲ致シマンテ帝國ノ政策ニ同調方要請スルコ
 ト必要ト考ヘテ居リマス

唯伊太利ハ天津ニ其ノ專管租界ヲ有シ共同租界及公使館區域ニ就
 テモ權利ヲ持ツテ居リマスルン又治外法權ヲモ享有致シテ居リマ
 ス爲伊太利カ帝國ノ措置ニ做フト致シマスルト之等ノ特權ヲ現實

0187

74

ニ放棄スルコトト相成リマスルノテ伊太利側ニモ多少ノ難色カア
 ルノデハナイカト考ヘラレシヤルカハ伊太利ト致シマンテモ當面ノ
 問題ハ米英擊滅ノ戰爭完遂ニ在ルコト勿論テ御座リマスルノテ共同
 戰線ヲ受持ツ國民政府カ政治力強化ト書クコトニ對シテ大ナル困難
 存セザレバコト申スルニテ存セラレマス依テ帝國ト致シマン
 テハ伊太利側ニ對シテ充分ニ利害關係ヲ説キマンテ伊太利租界共同
 租界及公使館區域ノ移管位ハ實行キシメ度イト考ヘテ居リマスル

カ日獨伊三國條約ノ精神ニ基キマンテ三國ノ緊密關係ノ維持増進
 ヲ第一ニ御座リ根幹トシテ話合ヲ進メ度イト存スル次第テ御座
 リマス

次ニ佛蘭西テ御座リマスルカ佛蘭西ハ上海、天津、漢口等ニ專管

0188

最良之案也及ヒ
 満洲ニ對シテモ
 右様速ニ答ハル
 所ニテ政府ノ
 態度ヲ後以テ
 日滿華及ヒ本
 毛同ノ提携ノ案
 案化ヲ計ハル
 事ヲ改メテトモ
 手前ノ案ヲテ
 行ハス

關係ノ維持ヲ充分ニ考慮致シマシタル上ニテ最モ適當ト思ハレマ
 スル時機及方法ニ於テ實行致シ度イト考ヘテ居ル次第デ御座リマ
 ス
 尙國民政府ノ參戰立ニ之ニ伴フ帝國ノ措置ニ就キマシテハ敵國側
 ニ於テ種々ナル逆宣傳ヲ興スヘント豫想致サレマヌルノデ帝國ト
 致シマシテハ國民政府參戰ノ大義名分ヲ闡明ヲ援助且帝國ノ公
 明正大ナル態度ヲ廣ク宣傳シ内外ニ之ヲ徹底セシムルコトニ付キ
 萬遺漏無キヲ期シ度イト考ヘテキル次第デ御座リマス

外務省

0191

外務大臣説明 (案)

(大臣起立)

昭一七二二一九

謹シテ本案實施ノ帝國戰時外交ノ全局ヨリ見テノ妥當性ト右實施
 ノ第三國關係ニ付テ申上マス
 先ツ本案實施ノ帝國戰時外交ノ全局ヨリ見テノ妥當性ニ付テ申上
 マスレハ元來大東亞戰爭ノ目的カ八紘爲宇ノ大訓ニ基キ差當リ大
 東亞地域ヨリ米英ノ東洋制覇ノ非望ヲ驅逐シ地域内ノ各民族ヲシ
 テ各々其ノ所ヲ得シムルニアリマスル以上今同支那ニ對シ採ラレ
 ムトスル政治經濟上諸般ノ措置ハ同國カ米英ニ對シ參戰スルト否
 トニ拘ラス逐次之ヲ實施ス可キモノナルコト明カニアリマスカ之
 等措置ヲ國民政府ノ參戰ニ牽連センメマスコトハ次ノ如キ時宜ニ

0192

360

79

適スルモノカアリマス

(1) 支那民族ノ前述大東亞戰爭ノ目的使命殊ニ共同ノ敵ニ對スル自覺ヲ深メ根本的日支親善ノ轉機トナルヘキノミナラス大東亞地域内他ノ民族特ニ戰、運命ヲ共ニシテ居リマスルタイ、ド、ルマ等ニ及ホス好影響ハ申ス迄モナク印度其ノ他米英ノ壓迫ニ惱メル世界多數ノ民族ニ對スル直接間接ノ心理的影響相當大ナルモノアルヘク又帝國ト致シマシテハ斯ル見地ニ立テ世界的啓發ヲ行フヘキモノト考ヘサレ

(2) 假リニ支那ノ參戰ナクシテ前述ノ諸措置ニ出テタリト致シマシヨウカ支那ノ一部ニ於テハ其ノ國民的習性トシテ「帝國弱シ」ト誤解シ或ハ敵方ノ逆宣傳ト相俟テマシテ逆効果ヲ醸スノ虞モ

0193

80

アリ惹テ帝國ノ本件措置ニ基ク世界的効果ハ半減スルノ憂ナシト致シマセス斯クノ如クハ本件措置ノ對内的影響ニ付テモ考慮スヘキ事情ヲ生スルト考ヘマス

(3) 本件措置ハ敵國及與國其ノ他ノ第三國トノ關係ヲ誘引スル性質ノモノテナリマスカ支那カ參戰致シマスル事ハ其ノ敵國トノ關係ヲ明快容易ニシ與國殊ニ伊國ヲシテ或程度迄帝國ト共通ノ立場ニ立タシムルニ便ナルヘク又佛國其ノ他ノ中立國ニ對シテハ「參戰」ト云フ支那國際的地歩打開ニ關スル異常ナル決意ト帝國ノ之ニ對スル公正ナル態度トノ反影ニ依リマシテ帝國ノ採ルヘキ態度ニ同調セシムルニ好都合ナルヘシト考ヘル次第ヲ御座イマス

0194

352

357

今回の措置の
把柄は諸君に他
中立と、対外
関係二面にて
重大なる影響を
与へんと見込ま
れり

謹ミテ本方針ニ基ク諸方策實施ニ關聯致シマスル對外的影響
關係ニ就キテ御説明申上マス
先ツ本條ノ旨ヲハ帝國外交ノ全圖ヨリ見テ概シク之ヲ要當ナル措置
トシテ存シテハ支那ノ參戰ニ契機トシテ帝國政府ノ政治力強
化ヲ圖リシメルコトハ帝國カ八紘爲宇ノ大訓ニ基キ各民族ヲシテ
各其所ヲ得シムルヲ以テ我對外國策ノ根本精神ト致シテ居ルニ
存スルニ於テハ支那ノ參戰ニ依リ支那民族ノ國民的自覺ヲ深メ、之ニ
對應スル帝國ノ公明ナル措置ハ大東亞地域内ノ諸民族ニ及ホス好
影響ハ申ス迄モナク印度其ノ他米英ノ壓迫ニ惱メル世界多數ノ民
族ニ對スル直接間接ノ心理的影響相當大ナルモノアルヘク又帝國
ト致シマシテハ斯ル見地ニ立テ世界の啓蒙ヲ行フヘキモノト考ヘ

80
其ノ間事ハ
於テ御説明
他甲乙あり
對シテテ
以テテ
私ニテ
スコト
此等
同調
少ナカ
次ニ本
マニレハ

ル次第テ御座リマス
更ニ支那ノ參戰ハ種々ナル對外的効果ヲ生スルノテ御座リマス
カ敵國トノ關係ニ於キマシテハ此等敵國カ支那ニ於テ有スル各種
ノ權利ヲ消滅セシメ支那ノ自主的地位ヲ恢復致シマスルニ
敵ニ對シテハ共同ノ戰爭完遂ニ相提携スルコトトナリ
又中立國ニ對シテハ支那ノ異常ナル決意ヲ帝國ノ七
ニ對スル公正ナル態度トヲ闡明シ之等中立國ヲシテ帝國ノ態度ニ
同調セシムル様誘導致シマシテ支那ノ國際的地位向上ニ資スル所
少ナカラスト存スル次第テ御座リマス
次ニ本件諸方策ニ關聯致シマシテ帝國ノ對第三國措置ヲ説明致シ
マニレハ先ツ獨逸ニ對シマシテ一月の遠征ヲ行ハルニ決意シ